

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	松山市別府町183番地2
自己評価作成日	2014（平成26）年6月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの庭には四季折々の花々や、野菜を植えている。利用者様と共に種植えや収穫を行っており、自然とのふれあいができている。
24時間365日往診可能な協力医療機関と連携し安心した生活を送っていただいている。また、職員は、勤勉であり研修や施設内の取り組みに熱心である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

● 献立は、一週間ごとに曜日に沿って、魚の日、お肉の日等決めておられるが、利用者主体の献立作りに困ったこともあり、法人代表者のアイディアで職員が、「献立カード」を作成された。揚げ物、煮物、又、じゃがいも、ホウレンソウ等、調理方法や食材別に写真入りのカードを作り、より利用者が選びやすいよう工夫をされている。献立表には、評価の欄を設け、利用者からの感想を書くようにされている。若年の利用者の掛け声で食事前には口腔体操を行っておられ、食事やおやつのはじめには音楽をかけ、電気を明るくして食べることを支援されている。協力歯科医を招き勉強会を行う等、事業所では口腔ケアに力を入れて取り組まれている。
● 若年の利用者は、事業所内での役割として共用空間等のモップかけを行えるよう、介護計画に採り入れて支援されている。利用者は、モップかけを行うことが習慣となって、ご本人の自信へとつながっているようだ。計画に沿って、具体的な支援を記した「個別ケア方針」を個々に作っており、職員で回覧して統一したケアができるよう取り組まれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム 援の華

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏 名

大原 チスカ

評価完了日

2014(平成26)年6月16日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 2月頃より職員間で話し合い、何度も検討を重ね、運営方 針と行動指針を作成している。3月の職員会議にて次年度 の運営方針及び行動指針を公表すると共に、朝・夕の申し 送り時にも確認し合っている。何度も確認することで意識付け を行い、実践に繋げている。	
			(外部評価) 平成21年度に「安心・安全で楽しく地域の中で共に支え合っ て生活できる場を提供します」と理念をつくっており、居間に 掲示されている。又、職員が意識統一して取り組めるよう、年 度ごとに「運営方針」と「行動指針」を作り、運営推進会議時 にも報告されている。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地方祭には、子供神輿の搬入があり、子ども達や地域の 方々と交流している。また、移動販売が月に一度来所してお り、予めご近所にチラシを配ってお誘いをする事で買い物 に参加し、楽しんでいただいている。また、近隣のご家族と 施設で飼っている犬を通じて施設との交流があり、今後も続 けていきたい。	
			(外部評価) 毎月、中山町から野菜やお惣菜等を乗せた移動販売車が 来てくれており、チラシ配布で近所の方にもお知らせして数 名利用されている。運営推進会議に参加する民生委員の方 が近くの小学4年生の子ども達を4～5名連れて来てくれ、利 用者とふれあう機会を作ってくださった。プレゼントしてくれ た紙細工は居室に大事に飾られていた。事業所周辺の地域 性等もあって、地域の方達とのおつきあいにに向けた取組み が、なかなか進みにくい現状にある。	法人代表者や相談員の職員は、事業所が地域と協力し合う ことの大切さを感じており、今後は、若い職員からアイディア を出してもらいながら、新たな取り組みをすすめていきたいと 考えておられる。事業所周辺には小学校や高等学校、又、 児童館や公民館等、いろいろな資源があり、法人代表者 は、「事業所側から積極的に地域へ足を運ぶことが大事」と 話しておられた。今後さらに、地域との相互理解や協力につ ながるような取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 施設での取り組みや支援の内容を運営推進会議で発表 し、民生委員さんへ地域住民へ情報提供している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、施設の近況報告を行い、利用者への取り組みについてスライドなどを用い出席者に報告している。出席者の意見・評価を参考にし、更なるサービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 会議は、民生委員や他グループホームの方、利用者、職員が参加して開催されており、必ず、職員手作りのいちご大福やかぼちゃプリン等のおやつを用意してもてなしておられる。事業所から利用者の現状や活動を報告し、職員は事業所で取り組んでいる「座ってできる媛の華体操」を紹介したり、「らくらくオリジナル献立作り」について説明されたり、「思い出ムービー」をみてもらいながら一年間の活動を振り返ったりされている。今後さらに、参加しやすい会議に向けた工夫を重ね、地域からの参加者を増やしていかなければいい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から市町村の介護保険課には連絡を取り、施設運営の協力を得ている。また、運営推進会議に参加していただき、施設の近況報告を行い、適宜な指導をいただいている。生活保護の利用者様については、生活福祉課へ、その都度、連絡相談を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者や地域包括支援センターの担当者が参加し、感染症の注意事項やグループホーム連絡会や研修について、情報提供してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修や勉強会を通して学ぶと共に、身体拘束について再確認することで、すべての職員が正しく理解している。日中・夜間の巡回、観察をしっかり行い、危険行為が予想される利用者には、布団に鈴をつけるなどして、事前に察知できるようにしている。 身体拘束をしないケアには、取組んではいるが、看取り期に入った利用者があり、酸素吸入を頻回に外すため、生命の危険があった。検討した結果、家族の同意を得て、やむを得ず最小限の拘束を行ったことがある。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関やユニット入口は解放されており、自然の風が入っていた。利用者が行方不明になった時に、いち早く利用者の情報を提供できるよう、個別ファイルの1ページ目に利用者の全身の写真や身長、年齢、状態等を記した用紙を綴じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を通して学ぶと共に、再確認し、虐待防止を徹底している。また、朝・夕の申し送りや、検討会を開き、個別ケア方針について話し合うことで、各利用者への適切な対応ができるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関する研修を行い、制度についての理解を深めている。 また、成年後見人制度を利用されている利用者があるため、制度に準じた対応ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書面による説明を行い、重要な箇所については、より丁寧に説明を行っている。また、不明な点がある場合は、その都度説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各種会議(職員会議、家族会議、運営推進会議)等を通じ、施設内外へ意見や要望を表せる機会を設けている。また、そのような意見・要望がある場合には、検討し、運営に反映させられるよう努めている。 (外部評価) 毎月、利用者の様子を手紙にしてご家族に送付したり、電話連絡等して報告や相談をされている。利用者への関心や関係が希薄だったり、足遠くなっているようなご家族もあり、12月の家族会は、2回に分けて行い、事業所の一年間の活動をまとめた「思い出ムービー」をすべてのご家族にみてもらえるよう取り組まれた。参加が難しい方には、来訪時を捉え見ていただいた。便りを通じて事業所でプルタブやペットボトルのキャップを集めていることを知らせており、協力してくださるご家族もある。	事業所では、利用者それぞれがご本人らしく暮らし続けられるよう、暮らしとケアについてご家族とゆっくりお話する機会を作っていきたいと考えておられる。又、ご家族と一緒におはぎを作ったりして、一緒におやつを楽しむような機会も作ってみたいと話しておられた。今後はさらに、ご家族と一緒に活動するような機会作りを工夫して、意見や要望をお聞きする等、信頼関係を作っていかれてほしい。さらには、利用者のご家族の関係再構築につなげていけるような取り組みも期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員会議、各種検討会議、ミーティング、その他個別の場を設け、職員からの意見や提案を聴いている。また、検討し、必要に応じてそれを反映させられるよう努めている。	
			(外部評価)	
			職員個々に資格取得を目指して、地域の病院で行われる研修へ参加したり、事業所内の勉強会では、テーマに沿って職員が持ち回りで資料を作成して勉強をされている。現在、介護度重度の利用者への食事介助等、時間をかけて支援しており、職員は、手不足を感じる面もあるようだが、職員同士のチームワークもよく、サポートし合って取り組まれている。パソコンが得意な職員が便りや思い出ムービーを編集する等、特技を活かし取り組まれている。相談員の職員は、今後さらに、先輩職員が新人職員を育てる仕組みや職場内託児所のような環境もつくり、さらに職員が長く働ける環境を整備していきたいと話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			社会保険労務士などとも相談しながら、適宜対応している。	
13		○職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			毎月、施設内研修を開催し、毎日曜日にも勉強会を開催している。また、資格取得を目指す職員やパソコン指導などを必要とする職員には、個別研修を行っている。 その他、外部研修への参加も促すと共に、職員も必要に応じて参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			各種会議（運営推進会議、事業者連絡会など）を通じ、他施設との交流を行っている。また、会議等で相互に情報交換をし、学んだことをサービス向上に繋げられるよう努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前にご本人やご家族との話し合いの場を持ち、情報収集を行っている。また、その情報は職員間で共有し、チームケアにつなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時、家族等の要望を伺い、共感し、家族に寄り添うことで、信頼関係を深める努力を行っている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時に各職種の職員が連携し、利用者様と家族等の話を傾聴すると共に、様子を伺いながら、利用者・家族の必要としている支援を見極め、その都度対応している。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯たたみ、掃除、配膳などの家事を一緒に行うことで、共に支え合いながら生活している。また、場面場面で利用者様同士でも助け合っている様子も見られる。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、近況をお伝えしており、電話やメール、毎月のコメントでも近況報告等を行っており、必要時には面談の場を設けている。 職員のみでケアを完結させるのではなく、家族と共に利用者ケアに当たっている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話が入る利用者には、快く取り次いでいる。家族に電話を掛けたいと希望のある利用者には、職員がかけ、取り次いでいる。家族・友人・知人が面会に来た際には、居室でゆっくり過ごしていただいている。 (外部評価) 利用者がご家族等に年賀状や暑中見舞いを出せるよう、介護計画等にも盛り込みながら支援されており、お返事をくださるご家族もある。利用者から「友達のことが気になる」という声があれば、ご家族と相談して連絡してみるようなこともある。ご家族が海のそばで仕事しているということもあり、「海がみたい」と利用者から希望があれば、海までドライブすることもある。調査訪問時、「お嫁さんがこの洋服を買ってきてくれたのよ。いつもよくしてくれてうれしい」と話してくれる利用者がおられた。ケアマネジャーは、子どもにかかわる仕事をしていた利用者と一緒に、近くの児童館を訪れてみることを計画しており、利用者の様子等を観察して、今後の支援につなげていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングで過ごし、利用者同士で関わりが持てるよう努めている。コミュニケーションが難しい利用者には、職員が間に入る事で他の利用者様と関わる事が出来ている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 移り先の関係者に速やかに情報提供を行い、ご本人が安心して暮らせるようにしている。ご本人・ご家族の経過をフォローする必要がある場合は、可能な範囲で相談や支援を行っている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より、本人や家族から意向を伺ったり、場面場面で出てくるニーズを把握し、その方の意向に沿ったケアに努めている。 また、生活歴シートを参考に、その方のライフスタイルを理解した上でケアしている。意思疎通の困難な利用者に関しても、場面場面で様子を伺いながら、ニーズに沿った支援をしている。 (外部評価) 利用者のことをより理解できるよう、昨年末から、「生活歴シート」に沿って、個々に、年代ごとに経験したことを記入して、さらに、「なじみの人、場、食べもの」等の情報を集める取り組みを始めておられ、ご家族に改めてうかがったり、職員が得た情報をまとめているところである。「人が喜んでくれるのが好き」という利用者は、得意なかぎ針編みで帽子やマフラーを作り、職員等にプレゼントされる。毛糸は職員と一緒に買いに出かけるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族に生活歴を記入していただき、利用者様からは日常の会話の中から必要な情報を得られるよう努めている。 入所前に利用していた医療機関や介護保険サービス事業所から情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の健康状態等をグループホーム日誌や介護記録に残している。また、朝・夕の申し送りや検討会等において、職員間で情報を共有をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			管理者、相談者、看護師、ケアマネ、介護職員が話し合い、ご本人のニーズを把握し細かい支援をしている。また、ご本人、ご家族の意見をお聞きし、ケアプランを作成している。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			若年の利用者は、事業所内での役割として共用空間等のモップかけを行えるよう、介護計画に採り入れて支援されている。利用者は、モップかけを行うことが習慣となって、ご本人の自信へとつながっているようだ。計画に沿って、具体的な支援を記した「個別ケア方針」を個々に作っており、職員で回覧して統一したケアができるよう取り組まれている。利用者の状態によっては、平行棒を使って歩行練習する方もいる。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			日々の様子を細かく記録しており、職員がその時々々の状況を思い描くことができる様に、記入の仕方(正確且つ、伝わりやすい内容であること)に気を付けている。 また、それら記録を基に話し合い、実践や介護計画の見直し・作成に活かしている。	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			外出や買い物の依頼、希望の献立など可能な限り、要望に対応している。日々の介護のなかで状況が変化した際は、すぐに見直し、ケアに繋げている。 また、利用者・家族から様々な要望があるが、可能な範囲で柔軟に対応するよう努めている。	
			(自己評価)	
			月に一回、来所する栗の里の移動販売は楽しみにしている利用者が多く、慰問、地方祭なども楽しみにしておられる。その中で外部の方と交流し、楽しく過ごせるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 365日24時間往診可能なかかりつけ医と密に連携を取り、適切な対応を行っている。また、ご本人及びご家族の希望があれば、他医療機関に受診ができるよう、かかりつけ医と相談し、受診支援を行っている。	
			(外部評価) 協力医は定期的な往診や、いざという時には毎日来てくれている。協力医が講師となり、「ターミナルケアに関する研修」を行い、職員で勉強する機会も作っている。協力医は敬老の日におまんじゅうを利用者にプレゼントしていただき、利用者は大変喜ばれたようだ。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の小さな変化でも施設看護師、及び協力医療機関へ報告・相談しており、その都度、迅速、且つ、適切に対応している。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者の入院時には、日常生活や服薬状況などサマリーとして入院先医療機関に情報提供している。協力医療機関や家族・入院先医療機関と相談しながら、施設での早期受入れが行えるように努めている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で、ご本人、ご家族の意向を伺い、それに添ったケアができるよう、かかりつけ医と情報交換を密に行っている。必要時は、かかりつけ医と家族を交えて話し合いを行い、意思確認を何度も行っている。また、その結果を介護職員に周知し、全職員が一つになり看取り支援を行っている。	
			(外部評価) 介護度が重度になってベッド上で過ごす時間が長い利用者も、床ずれができないようなケアに心がけておられ、これまでも床ずれができた利用者はいないようだ。「病院は嫌」「ここで死にたい」と希望のある利用者を看取った事例では、ご家族も事業所での看取りを希望され、介護計画は週に1回見直して、ご家族と連絡を取り合い確認してもらいながら、支援に取り組まれた。利用者の「過ごしやすい環境づくり」「好きな音楽を流す」等してご本人らしく過ごせるよう支援された。看取り支援を経験して、看護資格を有する職員は、「ご家族との関係づくりの大切さ」を感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修や勉強会で、全職員が、急変時や事故発生時の対応について周知するよう努めている。また、心肺蘇生法を学ぶため、救命キットなどを使用し、訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防避難訓練は、日中、及び夜間想定で消防署指導の下、定期的に行っている。また、地震対策を行うと共に、地震体験車による訓練を実施している。 運営推進会議の際には、民生委員や出席住民の方へ、災害時の協力依頼を行っている。 (外部評価) 毎月第一火曜日に消防設備点検を行っておられる。昨年11月の避難訓練は消防署の協力を得て、夜間火災を想定して行われた。今年5月にも実施し、運営推進会議時に報告されている。4月の運営推進会議では、職員が「東日本大震災から学ぶ南海トラフ地震への対応」と題して、今後の事業所における防災対策について報告された。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格や生活歴など状態を理解した上で、その方に適した言葉かけや対応を行っている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会時には、習字がお上手な利用者に毛筆で会名を書いてもらったり、若年の利用者には、「一番やりたいこと」を探り、「甘いものがお好き」なことや「歩きたい」という希望を優先した支援に取り組まれている。そのような取り組みから信頼関係が築かれ、穏やかな日々を送ることにつながっている。2ヶ月に1回、訪問美容師が来てカットしてくれたり、ご家族となじみの美容室に出かける方もいる。法人代表者は、昔ながらの親子のふれ合いのあり方を大事にしながら、新しいケアとも合わせ、これからの介護を考えていきたいと話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の思いや要望に応えられるよう、関係作りに努め、日常の小さなことから自己決定できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々穏やかに過ごせるよう支援している。四季を感じてい ただけよう季節行事を行い、四季折々のお菓子や食事の 提供を行っている。また、一人一人のペースに合わせ、希望 に添った過ごし方ができるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 入浴前日、職員と一緒に入浴後に着る服を選んで。女 性利用者様にはマニキュアを塗ったり、お化粧をするなどの 支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が手作りをしている。毎月1日は小豆ご飯の日、15日 はお寿司の日、お誕生日ケーキの日を恒例メニューとなっ ている。その他の献立もバラエティに富んでおり、和洋中はもと より韓国料理、イタリアンなど様々である。準備、片付けはお 手伝いできる利用者様にお願いしている。 (外部評価) 献立は、一週間ごとに曜日に沿って、魚の日、お肉の日等決めて おられるが、利用者主体の献立作りに困ったこともあり、法人代 表者のアイデアで職員が、「献立カード」を作成された。揚げ物、煮 物、又、じゃがいも、ハウレンソウ等、調理方法や食材別に写真入り のカードを作り、より利用者が選びやすいよう工夫をされている。献 立表には、評価の欄を設け、利用者からの感想を書くようにされて いる。若年の利用者の掛け声で食事前には口腔体操を行っておら れ、食事やおやつのは折には音楽をかけ、電気を明るくして食べるこ とを支援されている。協力歯科医を招き勉強会を行う等、事業所 では口腔ケアに力を入れて取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者様と共に職員が献立表を作成し、協力医療機関の 管理栄養士にチェックを受けている。 また、利用者の既往歴に注意し、カロリーや水分制限のあ る方は、医療機関による指導を受け、それに沿って対応をし ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人一人に合った口腔ケアの方法で、ご本人が 出来ることは行っていたが、その後、職員がチェックしてい る。定期的に施設看護師が口腔チェックを行うと共に、年に 1回、全員歯科検診を受け、必要に応じ歯科治療を受けるこ とで、口腔内の清潔保持を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中、夜間共に定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、排便チャート表を使用して、個々の排便パターンを知る事によって、失禁を減らしている。失敗が見られる場合には、職員間で話し合い、改善に努めている。	
			(外部評価) おむつ着用で失禁が多くみられる利用者に、日中の活動を促したり、入眠剤を調整し、さらに夜間もトイレ誘導して支援を重ねることで、現在はご自分でトイレに行き、排泄できるまでに改善している事例がある。その過程が利用者ご本人の自信になり、穏やかで笑顔のある暮らしにつながっているようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医の指導の下、薬剤を上手く使用しながらスムーズな排便を促すと共に、繊維質の多い食材を使用して、バランスの良い食事の提供や十分な水分摂取を行っている。	
			(外部評価) 冬場は週に2回、夏場は週に3回入浴できるよう支援されている。介護度が重度の利用者も職員が2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は基本的に決まっているが、入る順番、時間は出来る限り応えるようにしている。入浴日が、外出などの都合で入れないという場合には、前日に1階で入浴することもできる。 また、冬には柚子湯に入ること、季節を楽しめる入浴支援をしている。	
			(外部評価) 冬場は週に2回、夏場は週に3回入浴できるよう支援されている。介護度が重度の利用者も職員が2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、夜間の睡眠に響かないよう考慮しながら、出来るだけご本人の希望に添って休憩をしていただいている。夕食から消灯までは、利用者様に自由に過ごして頂き、夜間安心して休めるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の医療ファイルに目を通し、薬について把握している。症状の変化を記録し、施設看護師をはじめ、協力医療機関へ報告・相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴などを参考にし、その方にあった楽しみや喜びを見出せるように努めている。趣味や外出など気分転換ができる支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節のイベントなどに利用者様の希望を伺い、外出していただいている。個人的な外出については、施設内で相談し、家族に了解を得て外出している。家族との外出の際も同様に体調をみて、外出して頂いている。 また、天気の良い日には、自由に庭先へ出て、日光浴や体操をすたり、四季折の花を観賞していただいている。 (外部評価) 外出した時には、道の駅等で食事して帰ることもある。今春には、介護度が重度の利用者もお花見ができるよう職員で話し合い支援に工夫された。季節に応じて、見奈良ヘコスモスや菜の花を楽しみに出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時や、施設へ移動販売が来所した際に、お買い物を楽しんでいただいている。希望があればレジでお金の受け渡しをして頂き買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙が書ける利用者には、年賀状、暑中見舞いなどを家族宛に書いていただいている。家族に用事がある時などは、電話をかけ、直接要件を伝えていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節にあった掲示物、飾り物を共用の空間や居室に配置し、季節を感じていただけるよう工夫している。快適に過ごしていただけるよう、適度な換気、整理整頓、温度、湿度など配慮している。	
			(外部評価) 車いすを自走して利用する方が多く、食堂はテーブルを2つ付けて使用し、車いすが通れるスペースを作っておられる。玄関前の駐車場でラジオ体操したり、お花や野菜の世話の様子を見に出られるよう支援されている。事業所では音楽を大切に考えておられ、利用者が認識できるよう食事、リハビリ時、午前、午後、曲を替えて流しておられる。又、食事内容によっても曲を替えているようだ。調査訪問時、利用者は日中食堂のテーブル席で過ごされており、雑誌を読んだり、編み物したり、パズル等して過ごされていた。	利用者にとっては、職員が作り出す雰囲気も大切な環境の一つである。この機会を活かして、利用者の住まいとしての環境について、配慮や工夫できることはないか点検してみてもどうだろうか。たとえば、職員の制服や対応等、利用者個々のご自宅での暮らしぶり等もうかがいながら、話し合ってみてはどうだろうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士で近い席に座っていただいたり、1階、2階利用者が相互に行き来し、交流を図っている。	
			(外部評価) 入室時に馴染みのものがあれば、持ってきていただき、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入室時に馴染みのものがあれば、持ってきていただき、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室入口には、全部屋レースの防災のれんがかけられており、戸を開けて使用されていた。利用者の写真等を飾っており、溜まったらご家族に差し上げるようにされている。ご家族が化粧品を買ってこれ使用している方や、書道展に出展して敢闘賞をもらい、賞状を額に入れて飾っている居室も見られた。ベッドで長時間過ごす利用者には、職員が食事を運び、ベッドをヘッドアップして食事介助をされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 状況に応じて個別ケアを見直しており、その時に何ができ、何ができないのか、把握している。職員間で情報共有し、安全に生活できるよう自立支援を行っている。	